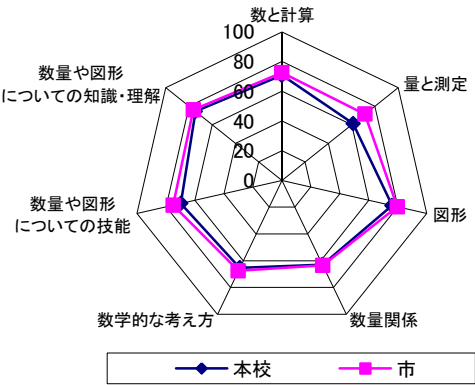


宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	70.8	72.5
	量と測定	61.3	71.5
	図形	76.0	79.6
	数量関係	62.9	63.5
観点別	数学的な考え方	65.2	67.6
	数量や図形についての技能	69.7	75.1
	数量や図形についての知識・理解	74.5	76.3



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	17問中9問は、市の平均を上回った。特に小数と整数のかけ算、整数の性質、数直線上の分数の読み取りは市の平均を大きく上回った。しかし、通分ありの分数のたし算や小数同士のかけ算は、市の平均を大きく下回る結果となった。	今後も継続的に計算プリントやドリルで基本的な学習の定着に努めたい。また、文章問題については市の平均を上回ったものの全体的にまだまだできていないので、文章で書かれたことを図に示しながら解答への一助にできるように授業の中で意図的に場を設定することで図を描くことに慣れていけるようにしたい。
量と測定	立体の体積、平均、混みぐあいを求める設問でいずれも市の平均よりも11%下回る結果となった。	図形の問題については、3次元的な図形のイメージができない子どもたちも多いので、授業の中で立体模型を有効に活用するなど授業の展開を工夫していきたい。また、既習事項を活用して発展的な求積を行うなど発展的な問題にも取り組んでいくようにしたい。
図形	7問中2問は市の平均を上回った。特に正方形の辺と角の関係に関する設問については15パーセント以上も上回った。しかしその一方で、四角形の内角の和に関する設問、合同な図形の設問については市の平均を下回る結果となった。	授業の中で、図形に関する問題により多く触れられるように授業の中身を精選していきたい。その中で、図形の性質に特化した問題を中心に解答していく中で、知識を定着させていきたい。
数量関係	前設問とも市の平均を上回るかほぼ同程度の結果となった。しかし、計算のきまり(分配法則)を理解していない子どもたちもいた。	授業の中で、基本的な計算のきまりを生かして立式するなどそれらのよさを実感できるような場面を意図的に設定し、計算のきまりを実際に使っていく中で定着を図ってきたい。